

2014年度 第4回

日本社会福祉学会関東地域部会運営委員会 議事録

日時：2015年3月15日（日）12:00-13:00

場所：東洋大学白山キャンパス1号館 6階 1605教室

出席者（敬称略）：■出席、□欠席

■高山直樹 ■森田明美 ■大島巖 ■荒井浩道 ■岡田哲郎 □岡部卓 ■小野孝嘉
□北本佳子 ■黒岩亮子 □小林理 □齊藤順子 ■榊原美樹 ■佐藤信人 □高橋克典
□田嶋英行 □月田みづえ □贅川信幸 ■原田欣宏 □菱沼幹男 ■山口麻衣
■山田知子 ■李恩心 □六波羅詩朗 ■渡邊浩文 ■丸山晃 ■由良亮人（事務局）

〔報告〕

1. 各部会活動報告

○研究大会について

- ・本日、研究大会開催、午前中に自由研究報告が行われた。
- ・参加人数は集計中、事前申込が90人あり、おそらく100人は超えている。

○社会福祉学評論、編集委員会について

- ・2014年中（4月～12月）に13件の投稿あり
- ・投稿に関する質問（4件）

2. その他

〔議題〕

1. 2014年度関東地域部会研究大会について【高山氏報告】

○2014年度研究大会を2015年3月15日に開催（於：東洋大学白山キャンパス）

- ・大会テーマ「社会福祉学研究と実践の新たな枠組み—ソーシャルアクションを志向する研究・実践に求められるもの—」
- ・記念講演：記念講演（学会賞奨励賞受賞者：単著書部門と論文部門の2名）
- ・基調報告：「再考 社会福祉学研究におけるソーシャルアクション」
- ・シンポジウム：「社会福祉学研究と実践の新たな枠組み—ソーシャルアクションを志向する研究・実践に求められるもの—」
- ・自由研究報告：22演題（研究報告部門16題、萌芽的研究報告部門4題、実践報告部門2題）

2. 研究大会奨励賞の選考【小野氏、高山氏報告】

○選考の流れ

- ・自由研究報告22演題の申請があり、この中から運営委員による第一次審査（事前審査）を通過した4演題が、第二次審査（最終審査）の対象となった。

- ・審査員（選考委員長：高山担当理事、森田先生、大島先生、山田先生）による最終審査の結果、乙幡美佐江（ルーテル学院大学大学院博士後期課程3年）「高齢者虐待悪化防止の協働プロセスの実態-ケース記録の質的分析を通して-」が満場一致で受賞した。

○今後の課題

- ・ここ2～3年で選考方法等の審査の流れも標準化されてきたが、次年度以降、見直す点があれば、改善していくので意見をいただきたい。
- ・今回から報告時間を短縮していることにより、報告内容や発表構成に物足りなさを感じられた。
- ・発表者のリピーターの増加
- ・提出期限後の発表要旨の差し替えが増加
→ 受付対応等に支障をきたしている為、内部規程検討の必要性

3. 社会福祉学評論、編集委員会【大島氏報告】

- 受理論文掲載の関東部会機関誌・社会福祉学評論13号（電子版電子ジャーナル）が発刊
- 編集規定・執筆要項を改訂し、担当編集委員の役割分担等、査読体制を構築するとともに明確にする。

○2014年中（4月～12月）に13件の投稿あり

- ・大島編集委員長は今年度末まで、現在引継中
- ・12月以前までの投稿分については、編集委員長：大島先生、編集業務：日本社会事業大学が対応し、12月末以降投稿分については、高山先生が対応している。

○投稿に関する質問（4件）の対応について

①筆頭著者の範囲（編集規程3.（資格）、投稿・執筆要項2.）

- 本研究誌に筆頭者として投稿を希望する者は、日本社会福祉学会会員でなければならない。拡大解釈として、「関東地域に在勤、在学、在住のいずれかの要件を満たす必要」がある。

②共著者の範囲（編集規程3.（資格））

- 筆頭著者を明確にし、共著者の制限はしない。ただし、「実質的な寄与をしている者のみ共著者として認める」とする。

③査読プロセスにおける加筆の結果、投稿原稿の指定文量（16,000字）を超えた場合の取扱い（投稿・執筆要項4.）

- 親学会では1割増まで認められており、同様に原則1割増まで認める。
（規程に明記されていないため、問い合わせの場合対応）

④論文フォームに対する用語の統一

- 「要約」を「要旨」に変更、あわせてホームページの表記も同様に対応する

4. 広報関係（ニューズレター）【小野氏報告】

- 関東部会ニューズレターNo.18（8ページ）を2014.12.24に発行し、関東部会研究大会チラシを同封し、関東部会会員に郵送

5. ホームページ【荒井氏報告】

○大会に関するホームページについて

- ・12月より開設し、早期における大会関係情報の周知やメールマガジン（2015.1.19）の一斉配信により、申込増加
- ・奨励賞に関する情報掲載 → 講評、受賞者コメント、授賞式の様子等
- ・要旨集の掲載

6. 来年度の運営、運営委員の選定等【高山氏報告】

○2014年度より新体制にて運営、2年目を迎える

執行体制：担当理事：高山直樹氏（東洋大学）、
経理担当：大島巖氏（日本社会事業大学）、監事：森田明美氏（東洋大学）

○総会において、事業報告とあわせて、新年度体制を報告する

○2015年度の運営委員体制

《委員の変更》

- ・岡部卓氏（首都大学東京：編集委員）→ 室田信一氏
- ・李恩心氏（法政大学：編集委員）→ 眞保智子（シンボトモコ）氏

7. その他

○2014年度会計状況について

- ・関東地域部会会計仮決算（2015年3月14日現在）を報告し、承認される（法人分）と（独自会計）の2会計があり、（独自会計）を総会にて決済
- ・各地域部会の独自会計の取扱いについて
→親学会で検討中、近日中に方向性の回答あり、部会の繰越金として扱う方向性が出されている。

○個人情報等のデータ管理について

- ・自由研究報告や社会福祉学評論等で生じたデータや個人情報の管理
運営委員の個人パソコンにデータが保管されている状況
- ・新年度（27年度）よりオンライン（クラウド）ストレージ（外部記憶装置）の稼働に向け、設置準備中

8. 次回運営委員会

2015年5月 日（ ）18:30～21:00に開催予定
場所未定（東洋大学）

記録：由良亮人